

● 文京粗大センターのスタッフが変わりました。



文京本郷粗大センターの金子です。

私は本社の営業企画部より8月8日付で文京本郷粗大センターに配属になりました。また同じく本社から伊藤君も一緒に異動になっております。

伊藤君は異動から約1週間で日々のルート図の作成を任されており、責任もあるが毎日が充実して楽しいと業務に励んでいます。そして私金子は何をしているかという、主に管理業務なのですが、意外と作業に出る日も多く今までの運動不足で鈍った体に鞭をいれ作業を行っています。より文京区に密着したサービスを行えるよう、培ってきた営業力を生かしていきたいと思います。現在の文京本郷粗大センターは20代～70代と年代の幅が広いですが年代でバラバラではなくブロック長の工藤さんと馬場さんを中心

にまとまりのあるチームとなっております。

平均年齢が高いですが、皆年齢を感じさせない力強さをもっています。配属になった当時は70歳近いおじさんたちが片手で自転車を軽々持ち上げての姿をみて驚きを隠せませんでした。文京区民の方以外にこの活躍をお見せできないのが残念です。

これから「愛ある丁寧な仕事」を目指していきますので今後ともかわらずお引き立てのほど、よろしくごお願い致します。

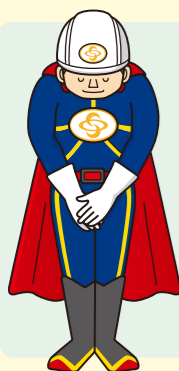


● 環境意識をさらに高めるために。eco検定にスタッフ7名が合格しました。

eco検定は、東京商工会議所の検定試験です。大谷清運では、複雑・多様化する環境問題の知識を幅広く身に付けることを目的として、eco検定の受験をスタッフに推奨しています。当社では既にISO14001を取得していますが、eco検定の受験を通して、さらに個人個人の環境問題に関する知識や関心が高まっています。

7月に行われた試験では第14回検定試験では7名のスタッフが合格しました。次回第15回の検定は12月に行われます。興味をお持ちいただいた方は東京商工会議所のアドレス<http://www.kentei.org/eco/>をご覧ください。

● 10月1日より事業系一般廃棄物処理手数料が改定されました。



かねてよりご案内しております通り、平成25年10月1日より東京都の一般廃棄物処理手数料が改定されました。これは、「事業系ごみ」の減量やリサイクルを推進し、受益者負担の適正化を図るために行われるものです。

これに伴い、許可業者と事業系一般廃棄物の収集・運搬等に関する契約を結ぶ際の契約上限額も36.5円/kgに変更されます。

この改定について当社の営業がご説明に伺っております。ご不明な点がございましたら営業へご質問いただくか、下記フリーコールでも対応いたしますのでお問い合わせ下さい。



産廃エキスパート
2012～14年度 中間処理業
2012～14年度 収集運搬業
(積替え保管を含む)

大谷清運株式会社

0120-965-554 フリーコールを是非ご利用ください。
〒125-0032 東京都葛飾区水元1-3-13 TEL.03-3600-5561 FAX.03-3600-5563
E-mail/info@otaniseiun.com http://www.otaniseiun.com



制作 リスリム

エコノート

Volume.22

autumn

2013年10月8日

大谷清運株式会社は、お客様にお役に立つ企業として環境関連情報をまとめた「ECO-NOTE」を発行しています。



私共大谷清運株式会社はお客様に喜んでいただける“愛ある丁寧な仕事”を極めてまいります。

大谷清運株式会社
代表取締役社長 二木 玲子



花の鉢植えを抱えて運転中の姿も・・・

先月業界の視察でベトナム・ホーチミンを2泊4日の弾丸ツアーで訪問しました。街全体に勢いがあり、朝の通勤ラッシュはバイク、バイク、バイクです。あんな集団で走る沢山のバイクを私は見たことがありません。現地でも通訳をしてくれたベトナム人女性のウィンさんによると…車には300%の税金がかかるので、お金持ちしか乗ることができないそうです。だから庶民の移動手段はバイク。少し高くても丈夫な日本製バイクに人気があるようです。日本が大好きで日本人を尊敬しているウィンさんは何度も日本人や日本製品を褒めてくれます。



資源が少ない国なのに、最高品質の製品を沢山作ることができる。日本は本当にすごい。どんな自然災害にあっても、負けないで立ち直ることができる日本人はすごい。たとえ100円SHOPで買い物をしてもしっかりと笑顔で「ありがとうございます！」と接客してくれる。日本人は本当にすごい。次に生まれ変わったら、日本人として生まれたい！と滞在し何度も日本人のすごさを話してくれます。私たち36名の日本人参加者たちはちょっと面はゆい気持ちでウィンさんの話を聞いていました。

日本を出ることで、“日本”の良さに触れ、日本人であることを誇りに感じることができました。

日本人本来の真面目さと正直さを大切にしながら、私たち大谷清運(株)は“愛ある丁寧な仕事”を極めていきたいと改めて思いました。

今回のECO-NOTEは、お客様に一番近い存在であるOTANIマン・ドライバー達の所属部署の再編と安全教育研修を紹介いたします。“愛ある丁寧な仕事”をお客様に提供することを私たちは使命としています。



敷地内をお散歩するガチョウ。最終処分場であることを忘れそうな、のどかな風景です。

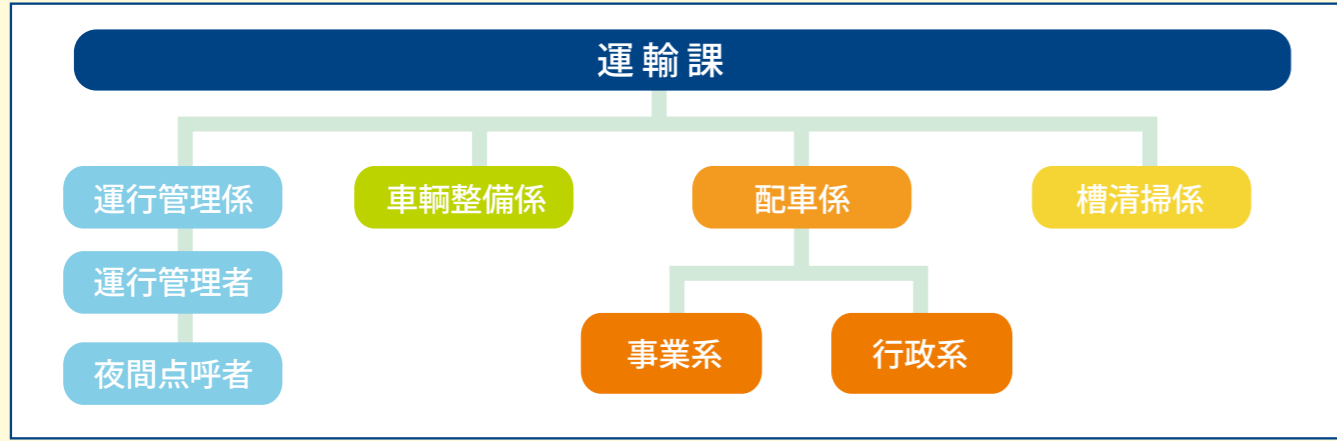
平成25年10月吉日



【NEXT50】を目指し進化する
大谷清運株式会社を宜しくお願いたします！



業務部運輸課の組織を見直し、再編成しました。



顧問に板尾吉春氏が就任



板尾 吉春 氏

この度、大谷清運株式会社に採用されました板尾です。
 私は、警視庁警察官として40年6ヶ月勤務し、警視庁第六方面交通機動隊長を最後に勇退し、その後6年6ヶ月東京交通安全協会免許部長として運転免許証関係の業務に本年3月末まで携わってきました。
 大谷清運株式会社では、安全作業の為の運行管理の指導、コンプライアンス遵守の教育指導、その他付随業務が私に課せられた主たる業務です。
 まだ、入社して3ヶ月を過ぎたところですが、今までの経験を生かしながら、期待に添えるよう努力したいと思っております。

運輸課課長就任挨拶

運行管理者紹介



大塚 清美

業務部運輸課課長
(整備管理者)

今度業務部運輸課・整備課を受け持つことになりました。

私としても責任が最重要視されることだと、十分に理解していかなければなりません。自分はどれだけ出来るか分かりませんが、湯浅統括運行管理者、霜鳥係長の力を借りながらやっていきます。会社が重要視している、社内ルール・コンプライアンスをしっかり守って、皆さんが働きやすい場所になるようにしていきます。

こんな私ですが宜しくおねがいします。

大谷清運では各担当毎に運行管理者を任命しております。運行管理者が各部をまとめ、統括運行管理者が全体を監督して安全管理をしています。



湯浅 誠一



霜鳥 裕一



神戸 裕行



小林 鉄也



大澤 文明



中西 雅弘



小野田 晃嗣

●運行管理講習会への参加

運行管理者は2年に1度講習を受けることが国土交通省より義務付けられていますが、大谷清運では毎年全員が受講して事故防止知識の向上に努めています。講習会では、トラックの事故の約半数となる追突事故の原因分析をし、自分達がどのように取り組んでいくべきか具体的な計画を考えました。

この講習で得たものをドライバーに伝え、運輸課全体で安全運転の向上を目指していきます。

●事故対応シミュレーション研修



業務部運輸課・営業企画部・経営管理部による業務連絡会において、合同の事故対応シミュレーション研修を行っています。マニュアルの内容を検討しながら事故対応の研修を重ねています。事故対応の演習を各人が行い、万一の際にも確実な対応ができるよう備えています。

緊急時、現場のスタッフが動揺して対応を誤ることのないよう「交通事故が起きたときの処置」カードは全スタッフが常に携帯しています。救急車や警察への連絡、相手方への対応、代車が必要になるか等の順を追って行動を記し、現場と運行管理者やその他のスタッフが一体となってスピーディーに対応できるよう、今後も定期的に研修を行います。



●安全強化デー

毎月21日の安全強化デーには、社長はじめ運行管理者が作業現場の安全パトロールをしています。また、「トラックの運転が他の運転者に与える影響の大きさ」「模範となる運転者としての心構え」について研修を行いました。トラックは事故の規模が大きくなり、被害者を生むだけでなく事故による交通渋滞など社会に多大な影響を及ぼします。一人一人が事故の重大性を認識し、「絶対に事故を起こさない」という信念と使命感を強く持ち日々の業務にあたることを確認し合いました。



■交通安全教育研修会報告

「安全の確保は貨物輸送事業における最大の課題」

講師：東京都トラック協会 相談員 五十嵐 俊一 氏



業務部運輸課では6月26日月曜日、「安全の確保は貨物輸送事業における最大の課題」と題し、事故防止・業務前点呼・適正な運行管理の重要性について研修を行いました。講師を努めて頂いた五十嵐氏は警視庁に40年勤務、その間に葛飾・墨田・江東・江戸川の交通対策をされるなどし、現在は東京都トラック協会で相談員として活躍されています。

五十嵐氏は「事故防止は何より自分のためになることである」との言葉から研修を始められました。平成24年度の東京の死亡事故は戦後最少となり、その中で歩行中の死者は約4割。歩行者との事故の場合、その7割程が歩行者側に斜め横断や信号無視等の何らかの違反があるそうです。歩行者・自転車・車が同時にスタートした時に

一番早くスタートラインから出てくるのは歩行者。パッと車の前に飛び出してくる危険があるので、歩行者にも十分に注意をしなければなりません。車輛側の事故原因の8割方は認知ミスであるということです。見落としていた、適切な判断ができなかったことが事故に繋がっています。

事業所における交通安全施策として運輸安全マネジメントの実践、運行管理者・整備管理者の役割として点呼の重要性や定期点検の実施について説かれました。

講習後、ドライバーからは、運転者の努めとしてあげられた「見ることが事故を起こさない基本」トラックは死角が多い、死角をつぶせというのが心に残った、背伸びをするなど姿勢を変えて落ちてくる注意力を上げるというのを実践したい、という言葉があがりました。

大谷清運では乗務前点呼をより確実に行うために、新規に免許証リーダーと、リーダーに連動したアルコールチェッカーを導入しミスのない点呼に取り組んでいます。また、交通安全教育研修会は毎月開催し、ドライバーの安全な運転のための知識・意識の向上に努め、よりお客様に安心してお任せいただける大谷清運を目指してまいります。